

第5回 第6次豊橋市総合計画策定市民会議（書面開催）  
意見要旨

令和2年3月

「快適で安心な社会基盤づくり」に関する意見

資料1を踏まえ、各委員の所属団体での活動経験や専門的な知見、日々の暮らしの中での実感などをもとに意見

○今回のテーマに関して考える理想像

- ・ 経済活動における様々なロスが最小化されるとともに、負担するコスト以上の便益が期待できる地域であることが必要。域内市場のみでは持続的成長は望めないため、限られたリソースを最大限に活かし、他地域から消費や受注、投資を呼び込み、域内における健全な循環が企業、市民に波及する社会基盤の形成が理想と考える。
- ・ 各校区や町が独自に考え、地域の実情に合った計画を作る。そのために市は予算配分を検討し、地域の競争力をつける。
- ・ 生活しやすい環境、交通の便が良い。地域(町内)が子どもひとりでも安心して歩ける。未来の子どもたちにも安心できる社会が理想。
- ・ 置かれた立場はそれぞれであっても、人が人らしく生きていける、そんな社会づくりが必要不可欠だと思う。
- ・ 戦略的都市経営により～という言葉がやや攻撃的な印象を受ける。
- ・ 市全体の社会基盤が整備され豊橋市に住む恩恵を皆が同様に享受できる社会が理想であるが、現実的には容易ではないと思う。
- ・ 豊橋市として校区や地区の単位などで「高層住専地域」「低層住専地域」「中小商業地域」「大規模商業地域」「文化・スポーツ地域」「工業地域」「農業地域」のように色分けし、効率的な社会基盤の整備が行えるよう望む。また、それぞれの地域特性に合わせた効率的かつ有効的な社会基盤への投資を望む。
- ・ 犯罪がなく、防災対策と、しっかりとしたインフラが整っている。子育てや教育がしやすい。近くに自然がある。趣味嗜好が満たされる。地域の方々が笑顔で支えあう環境が整っている。
- ・ 大学における教育機能を充実し、先見性・創造性・独創性に富み卓越した指導的人材を幅広い様々な分野で養成・確保することが重要。高等教育機関が自らを厳しく変革して社会の発展に寄与するとともに、高等教育の受益者が学生のみならず社会全体であるという視点を明確に踏まえ、社会側がそれを積極的に支援するという双方向の関係の構築が不可欠。

- ・ 温かい人同士のつながりを最も大切にする街・快適で安心な街・豊橋。環境保護、最新技術の開発と同時に、人とのつながりを大切にしていくために、という想いで。

○現況と課題について付け加えた方が良い視点や認識に相違がある点

- ・ 大規模災害の発生が高確率で見込まれていることを踏まえ、被害を極小化する取組みのほかに、発生後の速やかな復旧・復興に備える必要がある。住民を主体とした「地域力」の維持とともに、復興を雇用や収入の面から支える経済活動に向けた視点が欲しい。
- ・ 幸福感に強い影響を与えるものは「自己決定」だと思う。どんなにインフラ環境を整えても、人権をベースにした自己決定権が保証されなければ、すべての人の幸福感にはつながらない。人権を大切にした「人を育てる」という視点に欠けている。
- ・ 自治会の加入率が低いところには、それなりの問題があり改善は難しい。消防団に関しても同じ。基本的に考え方を変えない限り減っていくと思う。今の若い人がなぜ入りたがらないのか調査するとよい。
- ・ 災害に関して町内の方々ともさらに取り組む必要がある。3か月や半年に1回は避難訓練を行い、避難方法を確認すべき。町内や消防団にも参加していただく。
- ・ 学校の水道水は飲まないのが現状。また、学びたければ塾で、とう環境になっているのが平等なのか。出前講座は子どもたちだけでなく親にも知ってもらうことが大事。
- ・ 自治会加入率の低下となる要因は地域性もあるのではないか。自治会加入の必要性を理解してもらう努力が必要。
- ・ 消防団の充足率低下は、県外や他都市への就職、勤務先との関係から必要性は感じていても協力できないことが要因ではないか。
- ・ 交通弱者となる高齢者や障害者は特に手厚い支援が必要。
- ・ 日常生活が便利になりすぎていて、発災した場合に対処や対応ができない人がいる。一人ひとりに危機感をもってもらえるよう、防災に対する考え方を細部にわたり説明、理解を求める。例えば自治会が中心となり防災知識、現場経験の豊富な方の協力を得るなどして繰り返しの実体験をする。
- ・ 社会基盤の整備は重要だが、整備にかかる資源やコストには当然限りがある。歳出面では社会保障関係費が増大しており、セーフティネットである制度が足かせになって負のスパイラルに陥ってしまう懸念がある。
- ・ 豊橋市は近隣市町村に比べて企業誘致が弱いと感じる。企業の進出が少ない根本的な要因が社会基盤にあるのであれば、まずはその改善に取り組むべき。持続可能であるためには、その財政を支えられるだけの「強靱さ」も必要。

- SDGs に取り組むことに異論はなく、取り組むべきと考えるが、先に各地域の課題や問題、それに対する SDGs の活用方法を議論し明確にしてからである。また、SDGs は 2030 年までであることから、次世代の子どもたちへの推進よりもすぐに行動できる企業や企業人から浸透させるべきである。
- インドネシアへの水道技術支援やボルネオ保全プロジェクトが、豊橋市の快適で安心な社会基盤づくりにどのようにつながっているのか。
- 現在、大学の社会貢献（地域社会・経済社会・国際社会等、幅広い意味での社会全体の発展への寄与）の重要性が強調されるようになってきている。さらに、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代である。
- 教育・研究機能の拡張としての大学開放の一層の推進等の生涯学習機能や地域社会・経済社会との連携（ハード面とソフト面を含めて）も常に視野に入れていくことが必要である。
- 全体的にカタカナが多いため、基本的に日本語で表現できるものは日本語で表記した方が良い。
- 現在の日本は、生徒たちにとって受け身体制の授業がまだまだ多く、静かにまじめに授業を受け、多くの事柄を記憶した子どもたちが比較的良い評価を得る状況にある。自己表現・自己主張にかける面も多く、弾力性のある思考、偏見なく他者を思いやる心もかけている。小学生より、ディスカッションの授業を積極的に取り入れ、人種問題、貧富の差、環境問題、ジェンダー、平和活動、宗教問題などについて積極的に授業すべき。脳が柔軟な早い時期にこのような教育を始めるべき。
- 全体から見て、社会基盤が大変バランス良く整っている。多くの方々が、豊橋は暮らしやすい街だという印象を持っている。インフラ整備、環境、交通面から他市より遅れているところはあまりない。
- 都市計画の整備、それも中心ともいえる駅周辺の現状は他市より遅れている。活気のなさ、面白さや目を引く景観が乏しい。
- 駅西口の整備計画が幾度となく立ち上がったたり消えたりを繰り返している。一方、来年度から駅東口周辺の整備計画が現実に着工の運びとなったのは大変喜ばしい。
- 東三河全体は、自動車なしでは成り立たないほどの車社会だが、その割に渋滞は少なく道路環境も整備されている。
- 安全面では、河川や海岸の整備も過去の大災害を教訓に、地震や洪水から守れるよう着々と整備がなされている。

○方針と具体的な方策について付け加えた方が良い視点や認識に相違がある点、具体的な取組みアイデア

- ・ もう少し歴史にリファレンスするような体制や思考回路で取り組んでほしい。行政文書やアーカイブスのストックの充実等、何かの計画、デザインに対して必ず歴史的アプローチをする手法が確立されなければ、質の高いインフラはできない。
- ・ MaaS 等もよいが、市営でレンタサイクルサービスをはじめてはどうか。駅から市役所・豊橋公園、新しい再開発ビル、中央図書館等、自転車の貸し出しでモビリティを動かしてはどうか。
- ・ 市街化調整区域の土地利用管理を真剣に考える必要がある。地域コミュニティを強化し、住民と土地利用計画をともに考える体制に変えていく必要がある。
- ・ 全般的に「未来技術の活用」への偏りが強いように感じる。計画内容の進捗や具体化が「技術進展任せ」になるのではという懸念を持つ。
- ・ 道路整備に関して、限られた投資財源を考慮し、広域的なコンセンサスの形成を図り、優先順位を明確化する取組みが必要。
- ・ コンパクトなまちづくりを強化継続してほしい。今、郊外で問題になっている高齢者の買い物や通院困難の課題も将来的に軽減されるだろう。地域のつながりが希薄化し自治会の加入率も低下している時代に、新しい町のコミュニティ形成に力を入れなければ、本当の意味の住みやすさにはつながらないし、地域力も形成できない。
- ・ 家庭でのエネルギー消費が2倍になり、食品ロスの廃棄量も事業所より家庭の方が多いという現実から、ごみ減量・リサイクルの推進と SDGs の推進を強化したい。例えば、雑紙グランプリのように校区単位で減量キャンペーンに取り組み、効果を上げた校区には報奨金を月ごとに出す、毎月市民に結果を知らせる、といった活動など。SDGs の理解促進は子どもだけの講座ではなく、食品ロスやリサイクルも含めた大人向けの講座もあるとよい。
- ・ 校区市民館は現在、校区住民が申し込めば無料で利用できるが、受益者負担の考え方も取り入れ、冷暖房料程度の負担があってもよいのではないか。午後3時半以降は学童保育やトヨッキースクールなど子どもが使う場として確保したらどうか。
- ・ 消防団がどのようなことをしているのか、活動がよく見えない。自主防災会も同じ。充足率が下がっているとはいえ、まだまだ高い組織力を持っている両組織をつなげた地域組織を作ることで、地域の防災力を高めることはできないか。
- ・ 校区や町単位で地域委員会のような組織をつくり、短期、長期でどのような地域としたのか皆で考え、作り上げればと思う。
- ・ まずはシャッター街をなくすこと。駅周辺はだんだんと道がきれいになっているのにお店がないのが残念。歩きたい街にならない。

- ・ 車社会なのを受け止めつつ、市電を残し更に街に行きたくなる交通を考える。自動走行運転につながる技術開発は期待するが心配もある。
- ・ 道が細い地域が多く、スクールゾーンも確保できない町内があるので、交通環境づくりのひとつに加えてほしい。
- ・ 各学校で行う資源回収は、学校の収入につながる。町内や地域に1か所、リサイクル回収場所があれば町内の収入増につながると思う。
- ・ 現時点で実行可能な事案から早急に進めていただきたい。市民が利用できる支援や助成などについて、あらゆる手段を使い周知して弱者を見逃すことがないようにしていただきたい。
- ・ ごみゼロ発祥の地として全国へアピール。特定地域を指定して重点的に災害に備えるなど、地球温暖化による災害対策を重視。すべて電力に頼る生活を目指すのならば停電への速やかな対応が求められる。地域特産品を全国にPR。第2、第3の総合病院を作るなど病院の拡充。近隣市との連携の強化。
- ・ 立地適正化については、特に取り組んでいただきたい。日本の縮図ともいえるバランスの取れたこの豊橋を、今後も維持できるような取組みが大切。何かに秀でた特徴のある街も魅力があるのかもしれないが、自分自身が安心・安全で豊かな生活を営める街は、すべてにバランスのとれた心豊かに過ごせる今の豊橋だと思う。
- ・ 快適で安全で幸せな暮らしは、周りが決めるものではなく、その人自身が今、幸せか、今の暮らしに満足しているか、ではないかと思う。「働くことを軸とする安心社会」の実現が、理想像の一つになると思う。
- ・ 今ある雇用形態の安定と新たな働き方改革によって、さらなる生活のレベルアップを図っていくこと。働く者が、自らが必要とされていることを実感できるような職場環境が必要となる。働く者とは、給料をもらうための労働だけでなく、家事労働や地域でのボランティアなども含む。こうした方が、やりがいをもって安全・安心に働くことができるようになればよい。
- ・ オートセンシングやドローン、VRなどの活用がどこまで現実的に配備できるのか、それをいつまでに実施する予定なのか、それらを行政がどのように主導するのかがあまりに不透明すぎる。新技術の活用については、予算面からの国や企業が主体となって動く方が現実的では。それよりもデジタルから一度離れてアナログでできる社会基盤づくりを考察した方が現実的ではないか。例えば挨拶運動や企業の防災参画など。
- ・ スtockマネジメントの推進やユニバーサルデザインのさらなる展開なども取組みとして必要と考える。
- ・ 未来技術を活用して社会基盤を整備することは、今後重要となってくると思うが、最近話題の技術が羅列されていて、それがどう市民生活や社会システムの発展につながる

のか見えてこない。目的が社会の発展よりも新技術を取り込むことに逆転している印象を受けた。

- 市単体の事業でなければ、「連携して」や「産官学で」などの一文を入れた方が良い。
- 取組みの中に空き家問題や犯罪抑止対策などのセキュリティ面のことを加えてはどうか。
- 少子高齢化社会、核家族、女性の社会進出、孤独な生活を望まない人々、子どものために良い住環境が必要と考える人々、社会に役立ちたいと考える人々のために、幅広い世代と違う環境で生きている人々が同じ場所で助け合いながら生活できる集合住宅を、豊橋が先駆けとなってスタート出来たら、と思う。出生率の上昇、人同士のつながり、幅広い世代の交流による悩み相談、文化・教育・趣味などの活動、将来への不安軽減と精神的豊かさなどの効果がある。
- 温暖化対策と地球汚染のスピードを遅くするため、世界規模での問題だが、豊橋が積極的に、そしてすぐに実行できそうなものとして、水溶性プラスチックへの切り替えや排気ガスの抑制、大企業や広大な土地を有する富裕層へのある程度の緑化の義務付けなどを提案する。